



令和6年度
防災活動研修会支援助成事業
実施報告書

災害に強いまちづくり 全道運動

はじめに

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪等による被災を教訓に、平成17年度より「災害に強いまちづくり」をテーマにした全道・ブロック別町内会活動研究大会、研修会の開催、さらに、防災活動研修会支援助成事業を通じて、住民による自主防災活動を推進しています。

これらの取り組みは、東日本大震災を教訓に平成23年度より「災害に強いまちづくり全道運動」として位置付け、安心・安全な地域活動を推進しています。

「防災活動研修会支援助成事業」は、安心・安全な町内会活動を応援するため、「道町連共済」の会費収入を財源に「会員還元事業」として、平成17年度にスタートし、単位町内会等の住民自治組織において実施される防災訓練や自主防災組織研修会を支援しています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため助成を中止し、令和3年度～令和6年度は新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら研修会をすすめていただくようご案内しました。

19年目になる令和6年度は、正会員として所属の28市区町村において 59の研修会が取り組まれました。

令和6年度の研修会の多くは、地域住民に対する防災意識の啓発を目的として、行政、消防署、警察署との連携・協力により実施されました。

本書は、家庭や地域において防災に対する意識を高め、いざという時に地域住民が互いに助け合い、支え合える関係づくりを願い、59の研修会をまとめました。

終わりにになりましたが、本書を作成するにあたり、報告書のとりまとめにご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

一般社団法人
北海道町内会連合会

目 次

はじめに

1

1. 令和6年度の実施状況

3

2. 令和6年度実施状況一覧

4

3. 59研修会の概要

6

4. 令和6年度防災活動研修会支援助成事業実施要綱

36

5. 「防災活動研修会支援助成事業」

これまでの指定状況一覧

38

防災活動研修会支援助成事業 令和6年度の実施状況

1. 防災活動研修会支援助成事業とは

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪等による被災を教訓にして、平成17年度より「災害に強いまちづくりをめざして」をテーマに、町内会の防災に関する広報活動、研修会の開催、さらに、防災活動研修会支援助成事業を通じて、住民による自主防災活動を応援しています。

これらの取り組みは、東日本大震災を教訓に平成23年度より「災害に強いまちづくり全道運動」として位置付け、安心・安全な地域活動を推進しています。

本助成事業は、安心・安全な町内会活動を応援するため、見舞金制度「道町連共済」の会員還元事業として、平成17年度にスタートし、連合町内会や単位町内会等の住民自治組織において実施される防災訓練や自主防災組織研修会を支援しています。研修会を実施する単位町内会等には、2万円が助成されています。

2. 令和6年度は59組織に助成

本事業19年目の令和6年度は、正会員として所属の28市区町村の単位町内会45組織、地区連合会14組織の59の組織において主催・共催実施されました。

「防災活動研修会支援助成事業」 (組織)

実施組織 年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22
単位町内会	21	38	38	70	58	61
地区連合会	10	13	10	16	19	31
連合町内会	13	9	10	14	8	5
計	44	60	58	100	85	97

「災害に強いまちづくり全道運動」として位置づけ推進 (組織)

実施組織 年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	R5	R6
単位町内会	61	69	68	78	70	67	70	63	74	34	31	46	45
地区連合会	22	13	22	19	23	23	22	27	16	5	6	10	14
連合町内会	14	12	10	4	8	9	8	10	14	2	—	—	—
計	97	94	100	101	101	99	100	100	104	41	37	56	59

3. 令和6年度の取り組み状況

研修会は、令和6年の元日に起こった能登半島地震の影響から、大規模地震災害、津波、台風による水害等を想定した「避難所開設・運営訓練」への取り組みが多くダンボールベッド・簡易トイレの組み立てやAEDの取扱い、救命講習等の実践が多く見られました。さらに、高台への避難訓練、夜間での避難訓練や冬期における避難所での対策などの取り組みも見られました。令和6年度に取り組まれた研修会は、次頁の「令和6年度実施状況一覧」のとおりです。

令和6年度実施状況一覧

市区町村名	組 織 名	研修会名	頁
北区	新琴似連合町内会	防災防犯研修会	6
北区	中央・東ブロック	避難所運営研修	6
北区	南ブロック	基幹避難所運営会議	7
北区	拓北・あいの里連合町内会第3ブロック	防災訓練（第3ブロック）あいの里西小学校	7
北区	拓北・あいの里連合町内会第4ブロック	防災訓練（第4ブロック）鴻城小学校	8
北区	拓北・あいの里連合町内会第5ブロック	防災訓練（第5ブロック）あいの里東小学校	8
東区	栄東地区連合会	住民主体による実践的な避難所運営訓練	9
白石区	東白石地区連合会	防火・防災訓練	9
豊平区	クリーンリバー月寒東町内会	防火・防災訓練	10
豊平区	月寒F4町内会	防火・防災訓練	10
豊平区	月寒東236町内会	防災研修会	11
豊平区	豊平区豊平第12分区町内会	自主防災訓練	11
豊平区	豊平区豊平第13分区町内会	防災訓練	12
函館市	万代町会	防災訓練	12
函館市	尻岸内町内会・中浜町内会・女那川町内会	連合避難訓練	13
小樽市	東小樽町会	自主防災「避難所開設・運営訓練」	13
小樽市	入船地区連合町会・入船六三町会	防災講習会「もしもの備えと自助・共助」	14
小樽市	朝里地区連合町会	防災訓練	14
岩見沢市	幌向地区町会連絡協議会	冬の防災研修会	15

市区町村名	組 織 名	研修会名	頁
稚内市	こまどり町内会	防災訓練・研修会	15
芦別市	中央町内会	防災交流会	16
芦別市	旭町町内会	防災活動研修会	16
芦別市	野花南町町内会	防災活動研修会	17
江別市	高砂町自治会	円滑な避難所運営に向けて	17
江別市	アイシティ若葉台自治会	自主防災組織研究会	18
三笠市	若松町西親交会	防災講習会	18
三笠市	幾春別連合町内会	防災活動講習会	19
三笠市	萱野連合町内会	防災学校	19
根室市	千島町会	防災教室	20
根室市	定基第一町会	ふれあいサロン（防災訓練）	20
根室市	落石東町会	応急手当研修会・救急救命研修会	21
恵庭市	駒場町北町内会	炊き出し防災訓練	21
恵庭市	柏陽町西町内会	防災訓練及び学習会	22
恵庭市	島松旭町町内会	炊き出し訓練（防災訓練）	22
石狩市	北陽町内会	指定避難所運営訓練	23
石狩市	緑苑台東地区町内会	ぼうさい体験会（心肺蘇生とAED取扱講習）	23
石狩市	花川南第5町内会	自主防災避難所運営訓練・炊き出し訓練	24
当別町	緑町町内会	防災講習会	24

市区町村名	組 織 名	研修会名	頁
当別町	みどり野町内会	防災訓練	25
当別町	美里町内会	防災訓練	25
北斗市	中野通町内会	防災研修会	26
北斗市	押上自治会	ほくと防災マルシェ	26
北斗市	ひまわり町会	要支援者実態調査	27
七飯町	上湯出川町内会	緊急時の炊き出し	27
厚沢部町	館町町内会	防災研修会	28
厚沢部町	富栄町内会	救急応急訓練研修会	28
乙部町	第一緑町自治会	防災訓練	29
乙部町	館浦温泉自治会	防災訓練	29
乙部町	栄浜自治会	防災訓練	30
せたな町	都第5地区町内会	防災訓練	30
倶知安町	新東和会	避難訓練	31
倶知安町	南央コミュニティ協議会	防災訓練	31
枝幸町	本幌別自治会防災会	防災訓練	32
遠軽町	西学田自治会	防災（避難）訓練	32
遠軽町	水谷自治会	防災訓練	33
安平町	追分本町町内会	自主防災組織運営会議	33
新冠町	中央自治会	防災訓練	34

市区町村名	組 織 名	研修会名	頁
白糠町	橋北2区町内会	避難訓練	34
白糠町	鉄北2区町内会	防災研修会	35

北 区

新琴似連合町内会

～防犯カメラを生かしたまちづくり～ 防災防犯研修会

実施日 令和6年10月7日（月）

世帯数 12,180世帯

参加者 38名

協 力 新琴似まちづくりセンター、札幌市市民文化局、地域安全推進委員

目 的 「安全で安心に暮らせる地域社会」を目指した地域安全運動の推進。

■研修会の主な内容

各単位町内会会長、防災防犯部長及び地域安全推進委員等が参加し、防災防犯に関する研修会を行った。

研修会テーマ

- ①「犯罪被害を防ぐ～防犯カメラを生かしたまちづくり」
- ②防災活動について

■研修会の成果

「安全で安心に暮らせる地域社会」に対する防災防犯意識の向上を図ることができた。



北 区

中央・東ブロック(新琴似三番中央第二町内会他)

～適切な初動対応を身につける～ 避難所運営研修

実施日 令和6年11月25日（月）

世帯数 3,192世帯

参加者 11名

協 力 北区、新琴似まちづくりセンター

目 的 避難所として使用される施設の防災に係る設備等の確認や、避難所運営ゲームへの参加を通じ、避難所運営に係る適切な初動対応の確認と災害時の避難所開設、運営能力の向上を図る。

■研修会の主な内容

- ・避難所運営の基本的な考え方や避難所開設初動対応について
- ・防災行政無線、暗証番号キーボックス、受水槽及び備蓄物資等の学校施設の確認、取り扱いについての説明
- ・避難所運営ゲーム（HUG）の実施

■研修会の成果

少人数での開催となったが、避難場所の分類、施設の確認、避難所運営手順について基本を学び、地域の防災力向上につながった。



避難所運営研修



備品物資の確認

北 区

南ブロック(新琴似一番通北町内会他)

～避難所運営の確立に向けて～ 基幹避難所運営会議

実施日 令和6年10月21日(月)

世帯数 2,362世帯

参加者 19名

目的 万一の地震災害等の発生に備え、近隣5町内会自主防災組織の円滑な活動と災害に対する防災意識を図ることを目的として、基幹避難所の確立と、その運営及び周知徹底方法についての会議を行う。

■研修会の主な内容

- ・ 基幹避難所、自主防災運営委員会の設置
- ・ 災害時、避難所の受け入れ態勢の確立(避難時家族全員の避難届の持参)
- ・ 運営委員会の役割分担の決定
- ・ 基幹避難所の備蓄物資の確認

■研修会の成果

各町内会に自主防災組織はあり、防災訓練は実施しているが、避難訓練は少なく、基幹避難所については周知されておらず、自助のための見直し機運が高まった。



基幹避難所運営会議

北 区

拓北・あいの里町内会第3ブロック

～地域のリスクを念頭に～ 防災訓練(第3ブロック)あいの里西小学校

実施日 令和6年10月20日(日)

世帯数 約2,200世帯

参加者 120名

目的 地域住民の防災意識の高揚と協力体制を図る。

■研修会の主な内容

- ・ 避難所開設訓練
- ・ 地域の防災リスクの説明および防災クイズ
- ・ 心肺蘇生、AED取り扱いの訓練、ダンボールベッド組立訓練
- ・ 非常食炊き出し訓練及び試食

■研修会の成果

実際の基幹避難所で研修(訓練)を実施することにより、知識の習熟度が高まり、また、避難所開設による協力体制が構築され、地域の防災力向上につながった。



段ボールベッド組立



心肺蘇生訓練

北 区

拓北・あいの里町内会第4ブロック

～避難行動と避難者誘導を確認～ 防災訓練（第4ブロック） 鴻城小学校

- 実施日** ▶ 令和6年10月6日（日）
世帯数 ▶ 約2,400世帯
参加者 ▶ 102名
協 力 ▶ 鴻城小学校、北消防署、北区役所
目 的 ▶ 地域住民の防災意識の高揚と避難所開設作業の確認、避難行動の体験。

■研修会の主な内容

- ・ 避難所開設訓練
- ・ 避難者誘導訓練
- ・ 簡易トイレ設置、使用方法確認

■研修会の成果

実際の基幹避難所で研修（訓練）を実施することにより、知識の習熟度が高まり、また、避難所開設による協力体制が構築され、地域の防災力向上につながった。



簡易トイレの確認



避難者誘導

北 区

拓北・あいの里町内会第5ブロック

～地区の災害想定を基に備える～ 防災訓練（第5ブロック）あいの里東小学校

- 実施日** ▶ 令和6年9月29日（日）
世帯数 ▶ 約3,000世帯
参加者 ▶ 55名
協 力 ▶ あいの里東小学校、協働福社会、北海道医療大学、北区役所
目 的 ▶ 地域住民の防災意識の高揚と避難時に取りべき予備知識の習得。

■研修会の主な内容

- ・ 避難所開設訓練
- ・ 地区の災害想定及び災害への備え研修
- ・ 避難所設備、備蓄状況確認
- ・ 救護訓練（AED使用方法、心臓マッサージ）

■研修会の成果

実際の基幹避難所で研修（訓練）を実施することにより、知識の習熟度が高まり、また、避難所開設による協力体制が構築され、地域の防災力向上につながった。



災害を想定した研修



救護訓練

東 区

米東地区連合会

～災害を自分のこととして備える意識～ 住民主体による実践的な避難所設置運営訓練

実施日 令和6年10月6日（日）

世帯数 11,044世帯

参加者 128名

協力 札幌市東消防署、札幌市東消防団米分団、札幌市水道局

目的 北海道胆振東部地震の教訓を踏まえ、住民自らが避難所を開設できるように、設営・運営訓練を実施し、防災意識と災害に対するスキルの向上を図る。

■研修会の主な内容

- ・住民自らが避難所の米南小を開錠し、避難スペースなどを設置
- ・避難者の受付、避難スペースの割り付け
- ・備蓄物資の運搬体験や非常食の炊き出しを実施
- ・緊急貯水槽からの給水訓練

■研修会の成果

災害を自分事として考え、万一の災害に備える意識が高まり、避難所や緊急貯水槽に対する認知やスキルを獲得できた。



避難所備品の説明



給水訓練

白 石 区

東白石地区町内会連合会

～災害を想定した訓練で理解を深める～ 東白石地区防火・防災訓練

実施日 令和6年9月28日（土）

世帯数 6,901世帯

参加者 301名

協力 白石区・白石消防署・白石消防団（本部及び東白石分団）・白石区災害防止協力会

目的 白石区との共催で白石消防署の指導及び防災関係機関の協力のもと、災害発生時に地域住民が迅速かつ的確に救急対応ができるよう、防火防災訓練を実施するとともに、地域住民の防災意識の高揚を図る。

■研修会の主な内容

- ①消火訓練
- ②煙道通過訓練
- ③応急担架作成・搬送訓練
- ④防災資機材使用訓練・救命AED訓練
- ⑤炊き出し訓練（日赤奉仕団）
- ⑥災害時給水訓練・高圧洗浄機体験・展示見学（災害時対応自動販売機・ドローン飛行）

■研修会の成果

実際の災害想定に即した訓練で参加者の理解がより一層深まった。特に防災資機材の使用方法や救命AED訓練では、実際の災害の場面で役立てることが出来る。給水訓練や高圧洗浄を体験し、災害時対応自動販売機から水をもらうなど、参加者の防災に対する意識が確実に高まった。



応急担架作成・搬送訓練



炊き出し訓練

豊平区

クリーンリバー月寒東町内会

～初期消火のうちに食い止める～ 防火・防災訓練

- 実施日** 令和6年10月6日（日）
世帯数 118世帯
参加者 60名
協力 豊平消防署
目的 消防計画に基づく防火防災。

■研修会の主な内容

- ・ 1～9番玄関ごとの安否確認
- ・ 消火器を使った消火訓練
- ・ 消防署通報から消火までの流れの確認
- ・ 2会F集会室で「高齢社会ますます増える電気火災」DVD放映
- ・ 炊き出し訓練

■研修会の成果

初期消火のできる火の出方の確認ができた。



炊き出し訓練



消火訓練

豊平区

月寒F4町内会

～出荷原因を改めて見直す～ 防火・防災訓練

- 実施日** 令和6年9月8日（日）
世帯数 26世帯
参加者 12名
協力 豊平消防署
目的 室内に潜む出火要因、ガスコンロの取り扱い及びグリルの清掃等。

■研修会の主な内容

- ・ 消防署による出火原因の説明等
- ・ 消火器の取り扱い方法について
- ・ 札幌市からの防災機材の説明および取り扱いについて
- ・ 防災の備蓄品について

■研修会の成果

出火原因であるガスコンロ、電気器具の取り扱いの見直し、防災備蓄品の確認、補充等。



消火器の取り扱い方法



防災機材の説明

豊平区

月寒東236町内会

実施日 令和6年10月20日（日）

世帯数 100世帯

参加者 14名

協力 豊平区地域振興課

目的 町内会会員の防災意識の向上、各家庭の防災準備・震災時の食の工夫等各家庭で話し合う機会をつくる。災害時に安全性を確認して避難するべきかを検討することの重要性について啓蒙する。

■研修会の主な内容

- ・ 出前講座「災害が起きた時に何をするべきか・身近な備えについて」
ダンボールベッド、携帯トイレ実習
講師：豊平区役所地域安全担当職員
- ・ ロープ結び（本結び・巻き結び・八の字結び）
- ・ 防災ビンゴ

■研修会の成果

研修会后、家庭で防災について話し合い、自宅での備えを若い家族もするようになった。防災意識の向上が図られた。

～家族で防災の話し合いを～ 防災研修会



研修会の様子



携帯トイレ実習

豊平区

豊平第12分区町内会

実施日 令和6年9月29日（日）

世帯数 1,417世帯

参加者 60名

協力 豊平消防署、豊平消防分団豊平分団

目的 訓練や体験を通じた防災意識の向上。

■研修会の主な内容

- ・ 災害における対応訓練
- ・ 災害時に個人としての行動訓練
- ・ 避難所での占用居住スペース体験
- ・ トイレ体験訓練
- ・ 消火競技 バケツリレー
- ・ 災害に備えて（小冊子）配布

■研修会の成果

町内会で自主防災訓練をすることで住民の防災に対する意識改革が図られた。

～緊急時の共助の重要性を感じる～ 自主防災訓練



居住スペース体験



備品の確認

豊平区

豊平第13分区町内会

実施日 令和6年9月8日（日）

世帯数 817世帯

参加者 94名

協力 豊平消防署、豊平消防分団豊平分団

目的 訓練や体験を通じた防災意識の向上。

■研修会の主な内容

- ・ 防災倉庫の披露、防災備品の確認
- ・ 防災紙しばい
- ・ アンケート調査
- ・ 消火訓練（水消火器使用）

■研修会の成果

町内会で自主防災訓練をすることで住民の防災に対する意識改革が図られた。

～緊急時の共助の重要性を感じる～

防災訓練



函館市

万代町会

実施日 令和6年6月23日（日）

世帯数 706世帯

参加者 57名

目的 住民の防災意識の公助と共助による災害に強い町会作りを目指す。炊き出し「災害食」の炊事訓練及び実食をし、避難生活でも健康に過ごす工夫の体験。

■研修会の主な内容

- ・ 津波警報発令による指定避難所への避難行動
- ・ 防災学習・講話
- ・ 救命救急講習会
- ・ 非常食の試食会

■研修会の成果

災害が発生したら落ち着いて事前に行動すること。今回の講話を参考に各家庭でも防災について話し合う大切さを確認した。

～災害に強い町会作りを目指して～

防災訓練



救命救急講習

函館市

尻岸内・中浜・女那川町内会

～時間想定を基にした避難訓練～ 連合避難訓練

実施日 令和6年9月25日（水）

世帯数 480世帯

参加者 145名

協力 消防・警察・函館市恵山支所・えさん小学校生徒

目的 地震その他の災害時における円滑な避難行動の確認と住民の防災意識の高揚を図る。

■研修会の主な内容

- ・巨大地震による太平洋沿岸の浸水を想定し、津波第一波到達時間が30分（女那川地区）と予想されるので、避難完了が20分以内を望成目標に避難訓練を実施した。

■研修会の成果

避難者全員が20分以内に避難完了し目標が達成された。



津波を想定した訓練



高台へ避難

小樽市

東小樽町会

～時間想定を基にした避難訓練～ 自主防災「避難所開設・運営訓練」

実施日 令和6年8月30日（金）

世帯数 3,525世帯

参加者 11名

協力 小樽市総務部災害対策室、水道局、N T T、北海道電力、小樽警察署

目的 町内会間での自主防災組織の実習訓練を通して、いざという時に住民を円滑に受け入れられる体制づくりを行うため。

■研修会の主な内容

- ・給水車から給水訓練
- ・非常用発電機操作訓練
- ・トランシーバー送受信訓練
- ・N T T衛星通信による電話回線訓練
- ・電気自動車から避難所への送電訓練

■研修会の成果

市や関係機関等との連携により総合的な実地訓練を経験できた。防災意識の向上や地域の防災力の強化が図られた。災害時における混乱やパニックを防ぎ、適切な行動をとることができる自信につながった。



非常用発電機操作訓練



給水車から災害用ポリ袋に給水訓練

小樽市

入船地区連合町会入船六三町会

～災害時に役立つ知識や情報を学ぶ～ 防災講習会「もしもの備えと自助・共助」

実施日 令和6年9月7日（土）

世帯数 2,986世帯

参加者 34名

協力 小樽市消防団第六分団、小樽市総務部災害対策室

目的 胆振東部地震や東日本大震災での教訓、急傾斜地の多い入船地区で居住する立地（平地と山の上）を意識し、災害による被害から地震の身を守るための心構えと日ごろの備えについて学ぶ。

■研修会の主な内容

- ①もしもの備えについて（講師：小樽市総務部災害対策室）
能登半島地震から見る備え、備蓄品チェックリスト
- ②災害時に役立つパッククッキング
ガスコンロにて湯煎チャーハン、ポリ袋カレー、ポリ袋蒸しパンづくり
- ③オイルランプ制作
廃油（サラダオイル等）を用いたオイルランプ制作

■研修会の成果

- ・もしもの時の心構えや日ごろからの備えについて確認するとともに、ハザードマップや正確な情報の重要性について学ぶことができた。
- ・全員で実際に調理することで、カセットガスコンロと鍋があれば缶詰や様々な食材で湯煎調理ができ、日常も利用できることが理解できた。
- ・停電の際、簡易な素材があれば明かりを確保できることがわかった。



災害時に役立つパッククッキング



オイルランプ制作

小樽市

朝里地区連合町会

～地域の様々な団体と連携して防災意識を高める～ 防災訓練

実施日 令和6年10月27日（日）

世帯数 4,204世帯

参加者 142名

協力 朝里中学校C S、北海道科学大学、札幌管区气象台、陸上自衛隊、小樽市役所

目的 朝里地区連合町会加盟町会と近隣の学校（朝里中学校）、各団体等が連携して地域の防災意識を高めるとともに、いざという時に住民が支え合える仕組みづくりを目指す。

■研修会の主な内容

- ・参加者で地域の危険箇所や避難経路、避難所の位置関係を共有した。
- ・札幌地方気象台職員の指導で、後発地震注意報ワークショップを実施した。
- ・中学生による災害学習で仙台市立荒浜陽学校での見学状況と避難訓練の取り組みの様子を発表した。
- ・自衛隊による救助機器の紹介と、炊き出し訓練を実施し試食した。
- ・市役所防災対策室職員から、防災物資の説明とダンボールベッドの展開などを実際に体験した。

■研修会の成果

地域の多くの住民が参加し、防災の知識と地域での取り組みの大切さを改めて認識することができた。



中学生による防災学習の発表



ワークショップで地域の方々との話し合い

岩見沢市

幌向地区町会連絡協議会

～冬期の災害やペットの避難に備えて～ ほろむい冬の防災研修

実施日 令和6年11月16日（土）

世帯数 2,554世帯

参加者 41名

協力 岩見沢市総務部防災対策室

目的 幌向地区の安心・安全に向けた町会活動の一環として、冬期の災害に対する備えを学ぶ。

■研修会の主な内容

- ・ 防災講話「地域における防災対策」
 - ①地震について ②冬季の避難所生活 ③ペット避難
- ・ 訓練・体験
 - ①ダンボールベッド組立 ②簡易トイレ組立
 - ③アルミブランケットの使用体験 ④新聞紙スリッパ作成
 - ⑤ポータブル発電機の始動方法の確認

■研修会の成果

「ベッドやトイレ等の防災備品組み立て体験が参考になった」「ペットの避難方法が理解できた」という意見のほか、研修で提供した簡易な防災グッズに高い関心が示される等、防災意識の高揚につなげることができた。



段ボールベッド組立体験



アルミブランケット使用体験

稚内市

こまどり町内会

～正しい知識とすぐにできる小さな行動を身につける～ 防災訓練・研修会

実施日 令和6年10月6日（日）

世帯数 300世帯

参加者 28名

協力 稚内地方气象台、稚内市役所総務防災課

目的 東日本大震災を契機に開始された本防災訓練・研修会は、日ごろからの防災意識の向上と被害を最小化・減災の実現を目的として実施しており、今年度は、いざという時の為に、防災意識を高め、正しい知識とすぐにできる小さな行動を身につけるために実施した。

■研修会の主な内容

- ・ 防災・気象知識の普及啓発
- ・ 災害講話、非常食の試食等

■研修会の成果

暴風雪や大雨による被害を防ぐために役立つ話や、最近頻発している地震災害を軽減するための取り組みの紹介、地球温暖化についての最近の知見の紹介があり、参加者からは今後の参考になったとの話があった。



災害講話

芦別市

中央町内会

～助け合いと備えの重要性を認識する～

単独防災交流会

実施日 令和6年6月16日（日）

世帯数 203世帯

参加者 50名

協力 芦別消防署、芦別警察署

目的 「自分の命は自分で守る」をテーマに、町内会員が地震で被災した直後の想定で避難・集合・避難所開設・安否確認の実体験を行う。

また、芦別消防署署員や芦別警察署署員を講師に招き、心肺蘇生法や防災グッズ使用体験、中央町内会男女参画部による炊き出し・非常食試食体験を行い、災害時における会員同士の助け合いと備えの重要性を認識することを目的とする。



隔離用テント設営



心肺蘇生法のOJT

■研修会の主な内容

- ・避難住民の名簿作成と安否確認演習
- ・芦別警察署員による防災グッズ説明
- ・芦別消防署員による心肺蘇生法とAED使用演習
- ・炊き出し訓練及び試食

■研修会の成果

それぞれの説明や演習を通して、日ごろから災害への備えが重要であることを学んだ。

芦別市

旭町町内会

～AEDの取り扱いなど応急救命を学ぶ～ 防災活動研修会（応急・救命手当講習）

実施日 令和6年9月8日（日）

世帯数 102世帯

参加者 20名

協力 芦別消防署

目的 災害時の自助・共助での連携により被害を最小限とする。

■研修会の主な内容

- ・人工呼吸法の訓練
- ・AEDの取り扱い訓練
- ・熱中症に対する応急手当の仕方について

■研修会の成果

研修会を受講し、今後の災害時等に活用できる。



AEDの取り扱いを学ぶ

芦 別 市

野花南町町内会

～火災時の対応を確認～ 防災活動研修会

実施日 令和6年6月11日（水）、9月10日（火）

世帯数 125世帯

参加者 20名

協 力 芦別消防署

目 的 消火器の使用方法や火災時の対応方法、A E Dを使用した蘇生術について学ぶ。

■研修会の主な内容

- ・ 消火器の使用方法について演習を行う。
- ・ A E Dの操作方法や心肺蘇生法について実技を行い学んだ。

■研修会の成果

消火器やA E Dの使用場面がいつ訪れるかわからないため、一度のみならず重ねて研修を行う必要だと感じた。



消火器の使用手順の確認

江 別 市

高砂町自治会

～実践的な体験を通じた訓練～ 円滑な避難所運営に向けて

実施日 令和6年10月5日（土）

世帯数 430世帯

参加者 24名

協 力 江別市、江別市民会館指定管理者

目 的 地域に発生した災害を想定し、江別市民会館を避難場所として開設した際の運営方法について実践を交えた訓練を実施する。

■研修会の主な内容

- ・ 避難所運営にあたっての自治会の役割を確認
- ・ 災害時における市民会館の各部屋の利用方法の想定
- ・ 炊き出し、ペット避難等の対応を確認
- ・ 段ボール間仕切り、段ボールベッドの設置を体験
- ・ 避難所運営に係る基本的事項（受付手順等）を確認

■研修会の成果

参加者の災害時における安全意識が高まり、防災意識が向上した。また、協力機関からの説明および段ボールベッド作成等の実践的な体験を通じて、避難所開設にあたっての段取りを学ぶよい機会となった。



ダンボール設営



間仕切りの設置体験

江 別 市

アイシティ若葉台自治会

実施日 令和6年9月29日（日）

世帯数 133世帯

参加者 46名

目 的 避難訓練、消火訓練、防火及び防災講習。

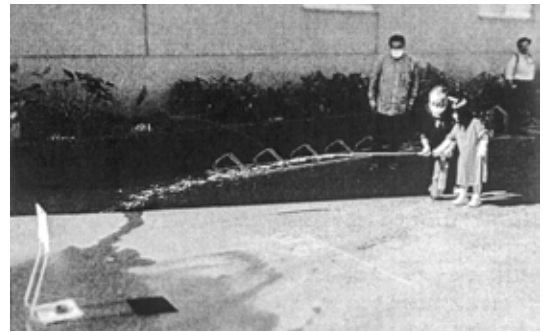
■研修会の主な内容

- ・ A棟～C棟ごとに各1分間訓練用火災報知ベルを鳴動させた後、約46名が自主避難。各自階段を使ってクラブハウス前までの時間計測
- ・ 消火器により模擬消火訓練を行う
- ・ 当マンション作成の防災ガイド（研修会資料）の内容説明を防災担当から詳細に案内
- ・ 防災について会員からの要望、問い合わせを聞き、緊急時の意識向上につなげる

■研修会の成果

避難時間が約13分かかることが確認できた。消火器を使った消火訓練で手順を確認できた。要望、問い合わせを協議・説明し緊急時の意識向上につながった。

～避難までにかかる時間を計測～ 自主防災組織研究会



模擬消火訓練



防火防災講習

三 笠 市

若松町西親交会

実施日 令和6年7月13日（土）

世帯数 39世帯

参加者 25名

協 力 三笠市消防署、岩見沢警察署

目 的 地震災害や豪雨等の自然災害だけでなく、人為的な災害に着目した研修会を実施。

■研修会の主な内容

- ・ 地震災害時における心構え
- ・ 防災非常食の試食
- ・ 防災備蓄保管庫の見学
- ・ 生活安全センターによる講話

■研修会の成果

参加者からは実技を含めて内容が具体的で非常にわかりやすかったとの感想を寄せられ、所期の目的を達成することができた。

～自分の地域にも必ず起こると想定して～ 防災講習会



地震発生時の初期行動



備蓄品の確認

三 笠 市

幾春別連合町内会

～自分の身は自分で守るために～ 防災活動講習会

実施日 令和6年9月28日（土）

世帯数 130世帯

参加者 35名

協 力 三笠市消防団第2分団、防災マスター資格者

目 的 地域における災害発生の危険を認識し、災害発生時には最小限に抑えるための行動の訓練及び、日ごろからの備え等を学び防災意識の高揚を図る。

■研修会の主な内容

- ・災害発生時における地域住民と各機関の連携について、当地区の自主防衛組織の体制を再確認。
- ・当地区の地図を基に危険箇所と防災意識の高揚、避難場所の確認・日常の備え、近隣の把握と行動など改めて考え直す機会となった。
- ・三笠市内の過去における水害の事例（雨量の数値・雨の強さ・住宅浸水の箇所）を資料と映像で説明してもらった。

■研修会の成果

災害時には自分の身は自分で守る努力を考え直した。



防災マスターによる講話

三 笠 市

萱野連合町内会

～安心して過ごせる避難所設営～ 防災学校

実施日 令和6年7月24日（水）

世帯数 52世帯

参加者 60名

協 力 三笠消防署

目 的 テントやプライベートルームの作り方・受付や物資の搬送の仕方を学び、避難所でも安心して過ごせるようにする。

■研修会の主な内容

1. 避難所体験、応急処置講習
防災・減災についての講話、ロープワーク体験
2. 緊急車両展示
3. 防災・減災のアドバイス、防災グッズの紹介

■研修会の成果

自衛隊や消防署員の話をも熱心に聞き、テントや段ボールベッドを組み立てていた。ロープの結び方や人が運ぶ方法も習い、災害時にお互い協力できるようにコミュニケーションをとっていた。



プライベート空間の作り方



ロープワーク体験

根 室 市
千島町会

～地震発生時にも火災に備えて～
防災教室（勉強会）

- 実施日** ▶ 令和6年10月13日（日）
世帯数 ▶ 100世帯
参加者 ▶ 20名
協 力 ▶ 根室市消防本部
目 的 ▶ 日ごろの火災予防や地震災害時に行うべき火災予防を学ぶ。

■ **研修会の主な内容**

- ・ 火災を防ぐ日ごろからの備えと火の取扱い
- ・ 地震発生後、避難前に行うべき火災予防対策
- ・ 万が一火災が発生した場合の初期消火や避難方法など

■ **研修会の成果**

個々におかれた家庭や場所などの環境に応じた、行うべき行動の確認ができた。



消防署員による講話



消火器訓練

根 室 市
定基第一町会

～被災後の生活再建にも目を向けて～
ふれあいサロン（防災訓練）

- 実施日** ▶ 令和6年9月15日（日）
世帯数 ▶ 34世帯
参加者 ▶ 16名
協 力 ▶ 根室市役所
目 的 ▶ 災害・防災に関する意識を高めるため。

■ **研修会の主な内容**

- ・ 発災時の対応
- ・ 災害時における子どもへの配慮
- ・ 災害関連情報への向き合い方
- ・ 被災後の生活再建
- ・ ダンボールベッドの組み立て体験

■ **研修会の成果**

災害・防災意識の向上と被災後の生活再建について学ぶことができた。



ダンボールベッド組立

根 室 市

落石東町会

～救急車が到着するまでにできること～ 応急手当研修会・救命救急研修会

実施日 令和6年11月7日（木）

世帯数 49世帯

参加者 12名

協 力 根室市消防署

目 的 市街地から距離があり、救急車到着まで時間がかかるので、いざという時のために応急・救命研修会を実施して、地域住民が連携・協力できる町会組織を目指す。

■研修会の主な内容

- ・人形を使っての心肺蘇生の方法
- ・AEDの使用方法
- ・119通報と救急車の呼び方、通話中の対応方法
- ・けがをした際の応急手当方法

■研修会の成果

AEDや心肺蘇生法について、参加者が熱心に学んでいたことから救急時における地域住民の早期対応につながる研修会となった。



救命救急講習

恵 庭 市

駒場北町内会

～炊き出しと見守り～ 炊き出し防災訓練

実施日 令和6年4月21日（日）

世帯数 170世帯

参加者 45名

目 的 防災炊き出し、ひとり暮らしの方の確認、食事の提供。

■研修会の主な内容

- ・炊き出し
- ・ひとり暮らしの方の確認
- ・食事の提供

■研修会の成果

炊事能力の向上、ひとり暮らしの方の状況確認ができた。



炊き出し訓練



恵庭市

柏陽町西町内会

～命の大切さを知る～ 防災訓練及び学習会

- 実施日** 令和6年5月26日（日）、9月29日（日）
世帯数 461世帯
参加者 合計74名
協力 恵庭消防署
目的 町内会会員世帯の防災知識及び意識の向上を図る。

■研修会の主な内容

- ・火災の発生状況と原因及び死亡者の傾向など
- ・火災警報器の類別及び設置場所、機能点検要領など
- ・消火器の種類・設置場所、有効期間及び使用方法など
- ・水消火器を使用した消火訓練（消火体験） ・心肺蘇生法 ・AEDの使用手順

■研修会の成果

①火災予防講習及び消火訓練

子どもを含む29名の参加であったが、熱心に受講していた。火災警報器では点検要領や種別と設置場所などの質問もあった。また、消火訓練では全員が体験でき操作手順・方法等も学んだ。

②一般救命講習

子どもを含む45名の参加であったが、熱心に受講していた。「命の大切さを知る」応急手当のポイントをわかりやすく具体的に実技主体で説明を受け、実習体験をすることができた。また、AEDと併用した救命処置手順を知ることができた。

③その他 恵庭市避難所運営マニュアルを印刷作成及び救急品セットを防災倉庫内に備えた。



防災倉庫に備える

恵庭市

島松旭町町内会

～災害時を想定して～ 炊き出し訓練（防災訓練）

- 実施日** 令和6年6月30日（日）
世帯数 473世帯
参加者 189名
協力 たよえーるきた、磯部石油ガス㈱
目的 災害時を想定した町内会による炊き出し訓練。

■研修会の主な内容

- ・食材の必要数把握及び発注・保管・調理の実施（白米炊飯・豚汁・肉野菜炒め）
- ・調理器具の点検及び外部燃料等の調達方法把握（LPガス・コンロの調達）
- ・一時避難所における調理・配給の実施（記録の保持）
- ・食事スペース確保（テーブル・椅子調達）

■研修会の成果

今回の炊き出し訓練は町内会として初めて実施し成功裏に終えた。参加者は子どもから高齢者まで幅広く参加し、結束が高まった。



一次避難所への搬送



炊き出し訓練

石 狩 市 北陽町内会

～運営の基本は避難者自身で～ 指定避難所運営訓練

- 実施日** 令和6年10月31日（木）
世帯数 240世帯
参加者 57名
協力 石狩市防災まちづくり協会、石狩市防災マスター協会
目的 新型コロナウイルス感染防止のため令和2年度より防災訓練を実施することができず、その間に町内会の役員や担当者も変わっていることから、災害発生時に必要となる避難所の運営についての知識を身につける。

■研修会の主な内容

- ・防災学習DVD・資料「指定避難所運営訓練」
- ・備蓄品の置き場所及び収納場所の確認
- ・ダンボールベッドの組み立ての体験
- ・非常用トイレ：スケットイレ便座、スケットイレの使用方法の説明
- ・非常用食料品（乾燥ご飯×2）飲み物配布
- ・「石狩市地区防災ガイド」、「風水害対策BOOK」配布

■研修会の成果

防災訓練を過去4年間実施できなかったことと令和6年元日に発生した能登半島地震により不安を抱えていたが、避難所運営の概要や備蓄品の種類・置き場所、ダンボールベッド・非常用トイレの組み立てや使用方法が確認できた。



DVDを見ながら説明を受ける



段ボールベッドの寝心地を確認

石 狩 市 緑苑台東地区町内会

～身近な人を守るため～ ぼうさい体験会(心肺蘇生とAED取扱講習)

- 実施日** 令和6年12月8日（日）
世帯数 1,010世帯
参加者 10名
協力 石狩市防災まちづくり協会、石狩市防災マスター協会
目的 町内会（自主防災組織）として「防災」に関わる情報や活動の周知が浸透していない状況を少しでも前進させるべく、いざという時に家族や友人を自分のちからで守るための講習として、応急手当（心肺蘇生法・AED取扱）を体験する。

■研修会の主な内容

- ・救命入門コース
心肺蘇生法とAEDの取り扱いを人形を使用し実際に体験

■研修会の成果

参加した一人ひとりが心肺蘇生・AEDの必要性や重要性を十分理解したうえで、人形を使った実地訓練を体験したことによって、有事の際には未経験のときとは全く違う対応ができる自信につながった。



心肺蘇生法とAEDの体験



石 狩 市

花川南第五町内会

～いざという時には連携と協力を円滑に～ 自主防災避難所運営訓練・炊き出し訓練

- 実施日** ▶ 令和6年10月13日（日）
世帯数 ▶ 900世帯
参加者 ▶ 100名
協 力 ▶ 石狩市防災まちづくり協会
目 的 ▶ 災害が発生した時等に、地域住民との連携と協力により避難所運営・支援がスムーズに力を発揮できるようにするため。

■研修会の主な内容

- ・ 地震発生を想定した総合訓練
- ・ 救命救急講習
- ・ 備品等の在庫確認

■研修会の成果

災害に襲われたときに自主防災組織が円滑に活動できるように、問題点及び改善点を見直すことができた。



救命救急講習



炊き出し訓練

当 別 町

緑町町内会

～自助・共助・公助の役割を学習～ 防災講習会

- 実施日** ▶ 令和6年11月17日（日）
世帯数 ▶ 309世帯
参加者 ▶ 32名
協 力 ▶ 当別町危機対策課危機対策係
目 的 ▶ 町内会においては少子高齢化が進み、高齢者世帯の割合は年々増加傾向にある。また災害時における避難誘導や避難所運営など、自主防災組織の中心的役割を担う町内化役員の後退や高齢化もあり、更には近年頻発する地震等の自然災害の発生状況を踏まえると、災害に対する心構えや対応行動、「自助・共助・公助」の役割を継続して学習する必要があることから今後の町内会の防災対策や災害時の対応等に役立てることを目的とする。

■研修会の主な内容

- ・ 能登半島地震の被害状況及び被災地支援、避難所の状況等について
- ・ 防災マップの活用及び防災用品等の備蓄について
- ・ 自主防災組織「自助・共助・公助」について
- ・ 防災質問コーナー及び非常食の配布・実技（ダンボールベッド作成） など

■研修会の成果

防災対策等について大きく学ぶことができた。「災害は忘れたところにやってくる・備えあれば憂いなし」のとおり参加者全員が災害に対し再認識した。この研修を踏まえ、災害時には慌てず、落ち着いて「自助・共助」の役割においてできる限りのことを実践したい。



ダンボールベッド作成

当別町

みどり野町内会

～隣保協同の精神で～

防災訓練（避難訓練・炊き出し訓練）

実施日 令和6年11月10日（日）

世帯数 309世帯

参加者 32名

協力 当別町危機対策課危機対策係

目的 住民の隣保協同の精神に基づき自主的な防災活動を行うことにより、災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的とする。

■研修会の主な内容

- ・ 当別断層を震源地とする震度5強の地震が発生したことを想定し、指定避難所へ避難を実施
- ・ 避難行動要支援者宅を訪問し、安否確認
- ・ 指定避難所へ避難した避難者の名簿作成
- ・ 役場職員による災害への備えについての講話を聴講
- ・ 炊き出し訓練（豚汁・おにぎり作成）

■研修会の成果

防災訓練及び炊き出し訓練をととして地域ぐるみで助け合える関係の構築ができた。防災の講話では、防災マップの見方等再認識することができた。



避難誘導



炊き出し試食

当別町

美里町内会

～訓練を通して地域コミュニティの強化～

防災訓練（救急車の利用方法及び炊き出し訓練）

実施日 令和6年10月19日（土）

世帯数 133世帯

参加者 29名

協力 石狩北部地区消防事務組合、当別消防署

目的 町内会では高齢者が多く、会員が自宅やその周辺でけがや病気等の場面に遭遇する可能性があることから、救急車の利用方法等の知識を習得する。また、炊き出し訓練を実施することで、災害の備えの一環となる。

■研修会の主な内容

- ・ 消防署の職員による救急車の利用方法等を学ぶ
- ・ 炊き出し訓練（カレーライスを作成）
- ・ 炊き出しの試食を通じて地域コミュニティの強化を図る

■研修会の成果

救急車の利用方法等、日ごろから認識することができた。また、炊き出し訓練等において、災害時の協力体制の再確認ができた。



消防署職員による講習

北 斗 市 中野通町内会

実施日 令和6年8月18日（日）

世帯数 370世帯

参加者 14名

協 力 北斗市

目 的 自宅から避難所までどのくらいの時間で到達できるかを「逃げ地図」を作成しながら考えてもらうことで、平時から避難場所、避難ルートを認識してもらう。

■研修会の主な内容

- ・「逃げ地図」の作成
- ・北斗市総合防災訓練の説明

■研修会の成果

防災意識の向上が図られた。

～「逃げ地図」を作成～ 防災研修会



逃げ地図の作成



皆で避難ルートの確認

北 斗 市 押上自治会

実施日 令和6年9月22日（日）

世帯数 105世帯

参加者 750名

協 力 消防署、自衛隊、警察など

目 的 防災に対する地域住民の意識向上を図る。

■研修会の主な内容

1. 防災講座：小学生の防災教室、津波タイムアタック、地図や風を読む学習、防災学習会、火災煙体験等
2. 交流広場：避難行動、簡易テントの設営、簡易トイレの使用方法、非常時携帯物の展示、防災関連車両の展示、防災グッズ展示販売

■研修会の成果

防災意識の向上が図られた。

～楽しみながら防災を学ぶ～ ほくと防災マルシェ



非常時携帯物の展示



展示物を見て意識を高める

北斗市 ひまわり町会

- 実施日** 令和6年6月29日（土）
世帯数 313世帯
参加者 16名
協力 北斗市、北海道防災士会
目的 町内会に居住する要支援者の実情を確認する。

■研修会の主な内容

- ・ 要支援者の居住地を徒歩により確認し、地図に情報を落とし込む。
- ・ 調査結果を町内会内で情報共有し、災害に備える。
- ・ 市の防災担当者から防災ハンドブックに関する講義を受ける。

■研修会の成果

防災意識の向上が図られた。

～支え合う体制づくりのために～ 要支援者実態調査



要支援者現地実態調査



地図に情報を落とし込む

七飯町 上湯出川町内会

- 実施日** 令和6年12月25日（水）
世帯数 420世帯
参加者 20名
協力 要支援者、支援者の親睦
目的 近くの公共施設を利用し50食の炊き出しに挑戦。

■研修会の主な内容

- ・ クリスマス会を兼ね、炊き出し当日要支援者の参加を集う（15名参加）。
- ・ 当日参加者の昼食を作る。
- ・ 炊き出し50食を作る（炊き込みご飯）。
- ・ 参加できない要支援者にご飯を届け今回の趣旨を説明し親睦する。

■研修会の成果

炊き出しづくりに要支援者から自発的な協力があり、助け合い、協力する気持ちで初の50食づくりを楽しく終えた。

～炊き出し訓練で親睦を～ 緊急時の炊き出し（要支援者対象）



炊き出し訓練



要支援者に届ける

厚沢部町

館町町内会

実施日 令和7年2月24日（月）

世帯数 175世帯

参加者 40名

協力 館駐在所

目的 会員の自主防災意識の高揚を図る。

■研修会の主な内容

- ・防災（防犯）に関する講話

■研修会の成果

一人ひとりの自主防災力の向上が図られた。

～自主防災力を高める～ 防災研修会



防災・防犯講話

厚沢部町

富栄町内会

実施日 令和6年12月1日（日）

世帯数 58世帯

参加者 12名

協力 厚沢部消防署

目的 高齢化する町内会において、会員相互の防災意識の向上を図る。

■研修会の主な内容

- ・救急応急処置訓練（心肺蘇生法とAED取り扱い）

①人形を使用した心肺蘇生法の体験（胸骨圧迫）

②AED取扱体験（電源・ガイドに沿って）

③気道確保の体験

■研修会の成果

会員相互の防災意識の向上が図られた。

～体験を通じて相互の意識を高める～ 救急応急訓練研修会



人形にAEDに取りつける



消防署員指導のもと訓練

乙 部 町

第一緑町自治会

実施日 令和6年9月2日（月）

世帯数 300世帯

参加者 19名

協 力 乙部町

目 的 地震、津波を想定した避難訓練を実施し、避難経路や所要時間を住民それぞれが把握し、緊急時の避難行動について確認し、防災意識の向上を図る。域内の危険箇所及び各種災害時の初動行動等について確認。

■研修会の主な内容

- ・避難訓練を実施し、避難経路の確認、避難時間計測
- ・災害発生時に地震で備えるべき備蓄品
- ・令和2年10月改定の町発行防災ハンドブック及び北海道作成の家庭の備えハンドブックにより、域内の危険箇所及び垂直・水平避難時の持ち物についての研修会を実施

■研修会の成果

訓練を実施することにより、自宅から避難場所への迅速な避難行動の確認を行い、災害時の初動行動について理解を深めることができた。

～緊急時の避難行動を確認～ 防災訓練



避難所へ避難

乙 部 町

館浦温泉自治会

実施日 令和6年9月24日（火）

世帯数 82世帯

参加者 26名

協 力 乙部町

目 的 地震、津波を想定した避難訓練を実施し、避難経路や所要時間を住民それぞれが把握し、緊急時の避難行動について確認し、防災意識の向上を図る。域内の危険箇所及び各種災害時の初動行動等について確認。

■研修会の主な内容

- ・避難訓練を実施し、避難経路の確認、避難時間計測
- ・災害発生時に地震で備えるべき備蓄品
- ・令和2年10月改定の町発行防災ハンドブック及び北海道作成の家庭の備えハンドブックにより、域内の危険箇所及び垂直・水平避難時の持ち物についての研修会を実施

■研修会の成果

訓練を実施することにより、自宅から避難場所への迅速な避難行動の確認を行い、災害時の初動行動について理解を深めることができた。

～災害時の初動行動への理解～ 防災訓練



避難所への避難経路の確認

乙 部 町

栄浜自治会

～迅速な避難行動を確認～

防災訓練

実施日 令和6年9月24日（火）

世帯数 68世帯

参加者 16名

協 力 乙部町

目 的 地震、津波を想定した避難訓練を実施し、避難経路や所要時間を住民それぞれが把握し、緊急時の避難行動について確認し、防災意識の向上を図る。域内の危険箇所及び各種災害時の初動行動等について確認。

■研修会の主な内容

- ・避難訓練を実施し、避難経路の確認、避難時間計測
- ・災害発生時に地震で備えるべき備蓄品
- ・令和2年10月改定の町発行防災ハンドブック及び北海道作成の家庭の備えハンドブックにより、域内の危険箇所及び垂直・水平避難時の持ち物についての研修会を実施

■研修会の成果

訓練を実施することにより、自宅から避難場所への迅速な避難行動の確認を行い、災害時の初動行動について理解を深めることができた。



津波避難場所

せたな町

都第5地区町内会

～確実な情報を受け取る～

防災訓練

実施日 令和6年6月22日（土）

世帯数 70世帯

参加者 70名

協 力 檜山広域行政組合せたな消防署

目 的 災害に強い町内会組織を目指す。

■研修会の主な内容

- ・災害時に使用する可能性のある救急救命法（AED）の使用訓練
- ・災害時に確実に情報を受け取る環境整備のため、当町内会全世帯を訪問し防災行政無線受信機の動作確認及び停電時対応のため全世帯の受信機の乾電池の交換
- ・令和2年10月改定の町発行防災ハンドブック及び北海道作成の家庭の備えハンドブックにより、域内の危険箇所及び垂直・水平避難時の持ち物についての研修会を実施

■研修会の成果

- ・AED講習（実演）により、災害時など救命救急対応の知識と技術の向上が図られた。
- ・町内会全世帯の防災行政無線受信機の電池交換で、災害時（停電等）にも情報を確実に受信できる環境整備が図られた。



AED訓練



防災行政無線動作確認

倶知安町

新東和会

- 実施日** 令和6年7月7日（日）昼間・9月26日（木）夜間
世帯数 59世帯
参加者 16名
目的 夜間避難訓練を実施することにより、避難経路の確認や必要なものを考える。

■研修会の内容

- ・夜間に地震が発生した場合の避難場所、手順を確認
- ・近所で声をかけあいながら避難
- ・避難場所に到着後、班員人数を確認
- ・反省会の実施

■研修会の成果

- ・昼間と違い。照明等を用意する人達が増えた。
- ・参加人数を増やしたい。
- ・夜間の避難は危険が伴うことが確認できた。

～夜間の訓練で昼間との違いを確認～

防災訓練



夜間避難訓練



昼間との違いを確認

倶知安町

南央コミュニティ協議会

- 実施日** 令和6年9月1日（日）
世帯数 691世帯
参加者 103名
協力 倶知安町危機管理室、倶知安消防署
目的 近年、線状降水帯による集中豪雨が発生している。南央コミュニティ協議会は、尻別川・倶知安川に挟まれたエリアでもあり、洪水災害に備えるため関係機関の指導の下、9町内会合同で防災訓練を実施し、災害に備えるとともに地区防災計画策定に向けた足掛かりにもする。

■研修会の内容

- ・避難所である西小学校までの避難（経路・避難時間の確認）
- ・各町内会の会員の安否確認 ・防災ガイドマップの説明・学習
- ・防災用具・用品（ダンボールベッド・簡易トイレ等）の組立・利用・非常食・非常携帯品の確認
- ・災害時の応急処置やけが人の搬出・輸送訓練 ・避難所での感染防止等の学習
- ・防災FreeWi-Fiの概要・利用学習

■研修会の成果

- ・各会員の避難経路や時間等を確認することができた。
- ・防災用具等の組立や応急処置等実体験を経験することができた。
- ・地区防災計画策定に向けた会議を立ち上げることができた。

～地区防災策定に向けた足掛かりに～

防災訓練



簡易トイレの利用説明



人員搬送の実地訓練

枝幸町

本幌別自治会防災会

～避難行動の習得に向けて～ 防災訓練

実施日 令和6年6月1日（土）

世帯数 13世帯

参加者 10名

協力 枝幸町、南宗谷消防組合枝幸消防署

目的 地域住民の安全な避難体制の確立を図るとともに、避難行動の習得を図る。また、地域住民の防災に対する意識向上を図る。

■研修会の主な内容

- ・ 避難訓練
- ・ 防災教育
（パワーポイントを使用した防災講話）
- ・ 消火訓練

■研修会の成果

避難経路の再確認や災害に対する日ごろからの備えを再認識することができ、防災意識を高めることができた。



防災講話

遠軽町

西学田自治会

～役割分担と協力体制が大切～ 防災（避難）訓練

実施日 令和6年7月20日（土）

世帯数 168世帯

参加者 43名

協力 遠軽町、遠軽警察署

目的 自治会員個々の防災に対する意識の高揚を図る。
実際の避難技術の習熟に努める。

■研修会の主な内容

- ・ 避難勧告の伝達訓練（一次集合場所への集合、要援護者等の確認ほか）
- ・ 指定避難場所への集団避難訓練～移動指示、要援護者の救護活動訓練（リヤカー使用）
- ・ 避難後の訓練（安否確認、被害状況の確認、ダンボールベッド、トイレ等制作、食事提供）

■研修会の成果

- ・ 訓練の実施により、地域内の防災意識の高揚が一層高まった。
- ・ 緊急時における役割分担の大切さ及び協力し合うことがいかに大事か確認できた。



リヤカーで救護活動



ダンボールベッド組立

遠 軽 町 水谷自治会

実施日 令和6年9月29日（日）

世帯数 101世帯

参加者 27名

協 力 遠軽町役場総務部危機対策室、遠軽地区広域組合消防署丸瀬布出張所

目 的 地域内の福祉避難所（老人福祉センター）があることから、自治会員の防災意識の向上を図ること。

■研修会の主な内容

- ・避難所開設訓練（ダンボールベッド組立）
- ・防災知識の講義（危機対策室職員による講話）
- ・救急講習会（消防署員によるAED操作）
- ・非常食の展示及び試食

■研修会の成果

ダンボールベッドの組立が簡単で寝心地も快適だと実感できた。また、AEDは8割くらいの参加者が未体験であったので実際に体験できて不安が少し払拭されたようだ。

～体験して不安を解消～ 防災訓練



ダンボールベッド組立



ダンボールベッドの強度確認

安 平 町 追分本町町内会

実施日 令和6年8月27日（火）9月28日（土）

世帯数 74世帯

参加者 30名

協 力 安平町

目 的 自主防災組織再編と防災多機能ラジオを全会員への配布と使用説明会。

～合併した新たな町内会の自主防災組織の再編～ 自主防災組織運営会議及び 防災多機能ラジオ使用説明会

■研修会の主な内容

- ・自主防災組織の規約の作成
- ・防災計画の作成
- ・組織図の人員配置と再編及び各連絡協議体制の再検討
- ・創立記念の記念品として全会員に贈った防災多機能ラジオの取扱い説明会

■研修会の成果

参加者全員の防災意識が向上された。



防災ラジオ

新冠町 中央自治会

～災害直後の対応を的確に～ 防災訓練

- 実施日** 令和6年10月6日（日）
世帯数 203世帯
参加者 41名
協力 新冠町、消防署新冠支署
目的 災害発生時に地域住民が迅速かつ的確に応急対応ができるよう、防火、防災訓練を実施するとともに、防災意識の高揚を図る。

■研修会の主な内容

- ・ 応急手当訓練
- ・ 消火訓練
- ・ 避難方法、避難経路、場所の確認
- ・ 避難所運営訓練（ベッド設営、テント設営、防災資機材の説明）

■研修会の成果

- ・ 災害の発生に対して、救急処置の手順、応急手当の方法、簡易搬送放送を学ぶことができた。
- ・ 避難所備え付けの資機材の使用方法を学び、そして自らが使用することで、災害直後の住民だけの状況における避難所開設の流れを理解することができた。



消火訓練



テント設営

白糠町 橋北2区町内会

～児童生徒と合同で～ 避難訓練

- 実施日** 令和6年5月10日（金）
世帯数 102世帯
参加者 13名
協力 白糠町立白糠学園
目的 地震や津波の災害時に町内会住民が速やかに避難できるよう避難訓練を行うとともに、災害時には互いに協力し合い、ひとりの被害者も出さないことを目的とする。

■研修会の主な内容

- ・ 大地震、大津波が発生したことを想定し、白糠学園との合同避難訓練を実施。
- ・ 避難場所を「九合の山」とし、生徒は学校から、町内会は各自宅より避難を実施。

■研修会の成果

児童生徒との合同避難訓練は、それぞれの自宅からの避難となり、改めて避難経路の再確認をすることができた。

避難が完了し、避難場所にて白糠学園校長より挨拶をいただき訓練の重要性を再確認することができた。今後も継続して実施したい。



児童と合同訓練

白 糠 町

鉄北2区町内会

～車イスでの避難も実践～ 防災研修会

実施日 令和6年7月14日（日）、9月23日（月）、令和6年1月26日（日）

世帯数 56世帯

参加者 延べ80名

協 力 白糠町地域防災係

目 的 町内会下院を対象に災害時における対処方法などを学ぶ防災研修会を3回開催する。

■ 研修会の主な内容

- ・ 3回の防災研修会において冬の防災対策、備える備品、トイレ対策など避難マニュアルを作成して配布。
- ・ 研修会時ごとに、防災ライト、保存食、懐中電灯、反射材リフレクター、携帯トイレ、ティッシュペーパー等を配布した。
- ・ 高齢者災害課題の聞き取り調査を実施。
- ・ 防災避難訓練研修会で町内会全員の避難場所と避難コースを決め、徒歩で避難路を歩いた。
- ・ 避難場所広場で避難テント、ダンボールベッドを設営。
- ・ 役場地域防災係講師による避難時の心構えなど避難時研修会も実施。

■ 研修会の成果

防災研修会、避難訓練など3回開催。有意義な研修会となった。今後も継続して防災研修会を会員が集まるときに実施することにした。



車イスでの避難



経路と時間を確認しながら訓練

災害に強いまちづくり全道運動

道町連共済会員還元事業

令和6年度防災活動研修会支援助成事業実施要綱

1 目 的

近年、全国各地で度重なる地震や台風のほか、気候変動等による影響により、大きな災害の発生やこれまで該当しないと思われていた地域においても災害の発生が懸念されています。また、令和4年末に内閣府が公表した巨大地震による太平洋沿岸の被害想定では、北海道は主に津波による死亡が最大13万7千人と示され、行政のみならず、企業、地域や個人で対応できる備えが必要とされています。改めて地域における住民主体の「防災訓練」や「避難訓練」、「自主防災組織づくり」等の取り組みが強く望まれます。

大きな災害では、地域住民の連携と協力による情報伝達や避難誘導、災害時要援護者への支援、避難所運営等の組織的な行動が、減災に大きな力を発揮することから、町内会・自治会における、地域の支え合う関係づくりが期待が寄せられています。

そこで、本助成事業は、災害に強いまちづくり全道運動として、単位町内会及び地区連合会において実施される防災訓練や自主防災組織研修会等に対して、道町連共済の会費収入を財源に助成を実施し、安心・安全な町内会活動を応援します。

2 事業の実施主体と助成対象

単位町内会及び地区連合会

※道町連共済に加入する組織に限定します。

3 助成の対象となる研修会

道町連共済に加入する単位町内会及び地区連合会が主催あるいは共催する研修会等

会員還元事業としての目的を徹底するため、昨年度同様に、助成対象を道町連共済に加入する組織に限定いたします。

（具体的な研修会例）

- 炊き出し訓練、防災講習会、防災マップづくり、災害図上訓練（DIG）
- 自主防災組織研修会、自主防災組織づくりのための会議、避難所運営訓練
- 災害時要援護者世帯調査・マップづくり、安心・安全関係者ネットワーク会議
- 応急手当研修会、救急救命研修会 等

4 申請の要件 1 正会員組織3カ所まで

※本助成は会員還元事業として、助成対象を道町連共済に加入する組織に限定します。

5 助成金額 1カ所 20,000円

6 助成枠 50組織／予算100万円

（本助成は、道町連共済の会費収入を財源にしています。）

7 申請書の提出

助成を希望する正会員組織は、別添申請様式により、要綱（案）を添付の上、下記事務局に申請してください。
なお、申請書の様式は、本会ホームページの「会員専用ページ」よりダウンロードできます。

8 申請にあたってのお願い

本助成事業は、安心・安全な町内会活動を応援するための道町連共済会員還元事業として、道町連共済の会費収入を財源に平成17年度より実施しています。申請にあたりましては、本事業が道町連共済の事業費によって実施されていることを単位町内会等へ周知いただくとともに、道町連共済へのより一層の加入促進にご協力くださるようお願いいたします。

9 申請書の提出期限 令和6年8月2日（金）

10 助成の決定と送金

- 1) 希望が多数の場合は、北海道町内会連合会正副会長会議において協議のうえ決定します。
- 2) 助成金の決定と送金は9月中旬に行う予定です。

11 報告書の提出

別添報告様式により、資料及び写真を添付の上、令和7年2月7日（金）までに下記事務局に報告してください。なお、報告書の様式は、本会ホームページの「会員専用ページ」よりダウンロードできます。

12 申請並びに報告先

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2.7 2階
一般社団法人 北海道町内会連合会事務局
Tel 011-271-3178 / Fax 011-271-3956
ホームページ <http://www.d-choren.or.jp>
メールアドレス info@d-choren.or.jp

令和7年3月現在

[illegible]

※1 平成17年度～19年度までは、助成枠60組織
 ※2 平成20年度より、助成枠100組織に増枠
 ※3 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により助成中止



令和6年度
防災活動研修会支援助成事業実施報告書

災害に強いまちづくり 全道運動

令和7年3月発行

一般社団法人 北海道町内会連合会

〒060-0002札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2.7

TEL 011-271-3178 / Fax 011-271-3956

E-mail: info@d-choren.or.jp

<http://www.d-choren.or.jp/>

